



日口交流

発行: 特定非営利活動法人日口交流協会

E-mail: nichiro@nichiro.org

Home Page: <http://www.nichiro.org>

〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14

麻布台マンション401号

Tel: 03 (5563) 0626 Fax: 03 (5563) 0752



ロシア大使館基礎化粧品講習会

内田 尚子

きもの着付け認可連盟のお仲間であった千葉さんにご紹介いただきまして、4月10日

(土) ロシア大使館でスキンケア講習会を開催させていただきました。私はスキンケアの販売とチーフインストラクターとしてスキンケアの知識、正しい使用法をお伝えすることを仕事としています。

今回は、素肌美を維持助長するために必要な皮膚科学と正しいお手入れ方法を、販売会社会長と2名のインストラクターとともに伝えました。ご参加いただいたロシアの方は、20代から40代くらいの女性10名でした。

ロシア語が全くわからないため、せめてご挨拶とありがとうだけでもロシア語でと思い、第一声をロシア語で「こんにちは！」とご挨拶しましたら皆様笑顔になってくださり、笑顔からスタートすることができほっといたしました。

皆様とっても熱心に聞いてくださって、質問もいろいろいただき、また、実際にお顔のお手入れをしていただきましたが、皆様つややかなお肌になられて喜ばれているご様子に安堵いたしました。通訳はロシア大使館のヴィクトリアさんがしてくださいましたが、皆様へ配布する資料はロシア語に翻訳してくださり、通訳も丁寧にしてくださいまして、初めての通訳つき講習会も安心して進めることができました。

終了時には、思いがけず皆様からロシアのお菓子とお茶のお土産をいただき、さらにロシアのお菓子とお茶、リングでのおもてなしを頂きました。温かいお心遣いに思い出深いひと時となりました。ロシアの方との交流は初めてでしたが、



友好的で、日本文化に大変興味関心をもって学ばれたり、独学で習得されていたり、お人柄、国民性の一旦に触れることができ、温かい交流ができましたこと、大変貴重な機会をいただきましたこと、心から感謝しております。

一緒に参りましたメンバーからの感想は次の通りです。

「厳重な警備をした入り口を見

て、非常に緊張しましたが、敷地内は穏やかな空間でした。更に温かい出迎えや会場設置のお手伝いしてくださった方々のフレンドリーな人柄に触れて緊張が解けて、リハーサル通り講義を進める事ができました。千葉さんと通訳の方にも、安心してサポートお願いできました。終了後、茶話会の時間は楽しく交流できました。」

「講習会の熱心さと会後の心温まるおもてなし、日本文化への興味を持たれて実際にいろいろされているのが素晴らしいと感じました。」

「ロシアの皆様の温かさに触れ、私ももっとロシアについて知りたいと思うようになりました。ロシア語が全く分からないので、日本語と英語交じりのコミュニケーションがとっても楽しかったです。」

民間レベルの交流が世界平和に繋がっていくことと思っております。日口交流協会のますますのご繁栄をお祈り申し上げます。

お知らせ

●ロシア語クラス生徒募集中！

水曜 初級2 (18:20~19:20) 初級1A-1 (19:25~20:25)

初級1A-2 (20:30~21:30)

金曜 入門 (18:30~19:30) 初級1B (19:30~20:30)

土曜 上級 (10:00~11:30)

オンラインクラスは月曜ゼロからクラス(19:15~20:15)、中級1、中級2のグループレッスンが3クラスあります。

*事務所では少人数で実施し、消毒液、パーテーション等用意して十分配慮はしておりますが、受講の皆様はマスクの着用、換気、手洗い等、感染の予防にご協力お願いいたします。(緊急事態宣言の際は原則オンラインとなります。)

対面クラス、オンラインクラスともプライベートレッスンも実施しておりますので、ご希望の方はご相談ください。ベテラン教師陣が皆様をお迎えいたします。

コルド・ナターリア (初~中級)、イローナ・パルフェノワ (中~上級)、タチヤナ・スニトコ (初~上級)、ウラジーミル・ボロビエフ (初~中級)、オクサーナ・ピスクノワ

●テーマ別ロシア語「おもてなしロシア語」8

日時: 2021年5月30日, 6月13日, 6月20日(日) 13:30~16:00

場所: 田町リーブラ (みなとパーク芝浦) 2階多目的室

会費: 会員7,000円、一般8,000円

●第72回マトリョーシカ絵付け教室

日時: 2021年7月4日(日) 13:30~16:00

場所: 田町「リーブラ」2階、造形表現室

会費: 3,000 (お好きな教材1セット含む)

講師: 菅野エレナ

●日本の家庭料理講習会2

日時: 2021年6月26日(土) 9:30~12:00

場所: 田町リーブラ料理室

会費: 2,500

*原則、会員のみとさせていただきます。

*エプロン、布巾、持ち帰り容器をご持参ください。

*お問い合わせ、お申込みは協会事務局まで。

Tel03-5563-0626、E-Mail: nichiro@nichiro.org



通商代表部できものの体験交流

千葉 麻里

2021年4月15日(木) 午後2時から品川の通商代表部ホールできものの体験交流が行われました。毎年春に実施される行事ですが、昨年はコロナ禍の影響でできませんでした。今年はパブレンコ主席の奥様からの依頼で、44名(女性20名、男性9名、女児10名、男児5名)という大勢の方のご希望がありました。

例年通り、広いホールに敷き詰められた敷布の上に、予め郵送した振袖とみんなで持ち寄った様々な着物を置き、希望者を待ちます。着付けは同僚で東京都連盟の着物の先生方(辻田直美、林由美子、内藤佳子)とお弟子さん(鬼澤真里)と私との計6名。普段から仕事場でも一緒にベテランなので、どんなきものでも安心して任せられるメンバーです。

今年は男性も多く、背の高い方は少し袴が足りなかったかもしれません。振袖は長めなので自由がききますが、袴はやはり特大サイズを探さなければなりません。女の子はピンクが好みで、他の子が脱ぐまで待っているという場面もありました。男の子は侍の姿がお気に入りです。どこからかおもちゃの刀を持ってきて、腰に差し、その雄姿を撮ってもらっていました。最後に来た男の子は、見慣れないものに泣き出してしまいました。子どもの場合、難しいのは手早く着せること、きつくないように、それでいて走り回っても落ちてこ



ないようにすることです。

いつもの年と違うところは、外での撮影だけでなく、ホール内に撮影所を設置していたことです。撮影係に回る人もおり、また、家族全員できものを着て記念撮影をしていました。日本での良い思い出の一つになればうれしいです。お手伝いに生け花の山岸先生も補正用のタオルを持って駆けつけてくださいました。

皆さん、仕事の合間をぬって来られるので、いつ、どんな方に着せるのかその場にならないとわかりません。い

つの間にか、用意した7枚の振袖がみんななかったりしていました。

5時を回っていましたが、最後に通商代表部の方々が手作りのケーキやクッキーで茶話会をしてくださいました。皆さんが本当に喜んで、いつも心のこもった歓迎をしてくださるので、先生方もやりがいを感じて楽しみに来ています。パブレンコさんの小さい娘さん、ナージャちゃんの手作りバナナケーキもとてもおいしく、うちでよくお手伝いしているのがわかりました。

紅茶と蜂蜜のきれいな小瓶のお土産をいただいて、送る方も送られる方も満面の笑みで、その日の交流を終えました。(副会長)

～イルクーツク便り(12)～

留学生活7年を迎えて・8

阿部 耕大

こんにちは、イルクーツク国立大学修士課程2年の阿部耕大です。5月になり長くて厳しいシベリアの冬からは解放され、雪も跡形もなく溶けたイルクーツクですが天気は安定せず、雨が降ったかと思えば晴天になったりと体調管理が難しい時期です。とはいえ夜の8時過ぎまで明るいので夏の到来までもう少しのようです。

4月の頭で大学院修士課程最後の授業を終え、期末試験もなんとか合格。試験の成績によって奨学金の有無が決まることもあり個人的に一安心でした。残す所は卒業試験と修士論文執筆のみ！ということで現在は寮の部屋でパソコンのキーボードをカタカタ叩く日々。合間に動画見ちゃったりして執筆の進捗は遅々たるものですが…(笑)

修士論文の執筆過程では通常論文の成果を発表する場として大学主催の学会発表が毎年4月に開催されます。基本自由参加ですが、この学会の出席者の中には6月下旬に行われる修士論文発表会の審査員の方(主に大学内の先生)がいることもあり、参加しておくことで発表後に彼らから問われた疑問点や問題点を修正し、当日の論文発表を円滑に行えるという利点があります。ということで試験準備と学会発表が重なった4月中旬までは少し忙しかったです。

今年はコロナ禍ということもあり対面とオンラインの同時進行で、学会に中国、ベトナム、クロアチアからの学生も参加していて国際的でした。自分はもちろんオフラインでの参

加でしたが何より驚いたのがもはやコロナなんて存在しないかのような3密状態の教室。現在では半数以上の人が室内や公共交通機関でマスクをしていない日常が当たり前のものとなりつつあります。ロシア製のワクチンが予想以上の効果を出しているのかもしれませんが、若い人の中では接種する予定が無いと公言する人も多く、変異株が世界中で蔓延しているし、地続きのモンゴルでは再びコロナの感染拡大が止まらない(情報元:報ステ)らしいのでイルクーツクも対岸の火事ではいられないと思うのですが…。ちなみに自分は医療機関から外国人のワクチン接種はモスクワとは違ってイルクーツク州では認められていないとのことで断られました(泣)。

さて卒業まで残す所あと2か月もないですが、学業と並行してイルクーツク州で行っている日本文化普及のボランティア活動も5月末まで続きます。学校の低学年クラスで折り紙を教えています。ロシアの子ども達は学校教育の一環として折り紙に親しんできたらしく、なんだか誇らしい気持ちになりました。彼らにとっては単に通常授業をしなくていいのが嬉しいのかもしれませんが(笑)。頭の片隅に小さい時学校になんか日本人来たってのが記憶として残ってくれば十分です。あと個人的に子ども達(と通ってる美容師のお姉さん)から自分は大学院生だけ29歳だからもう若くないよーと言ったら、どんな海藻を食べてるか教えて!と言われたのがツボでした。なんで海藻なんだろう?(笑)

ウラジヴォストークのハリウッドスター

畔上 明

「ローマの休日」で鮮烈なデビューを飾った女優オードリー・ヘップバーンは「謎に満ちたロシアの魂」「その風貌全体、声、彼から湧き出る力からは魂の揺らぎが伝わってくる」と同時代の俳優仲間ユル・ブリンナー (1920-85) の思い出を語っています。

シャムの王様を演じてアカデミー賞を受賞したユル・ブリンナーのミュージカル「王様と私」(1956年)は小学1年の私にとって終盤受容れざるを得ない死の畏れを感じ取り強く記憶に残った映画でもありました。

ユル・ブリンナーは母も祖母もロシア人であり、没後四半世紀ばかりを経た2012年には生れ故郷ウラジヴォストークに記念像が建てられました。シベリア鉄道終着駅の駅前広場からアレウツカヤ通りを北上して350m、スヴェトランスカヤ通りと交差するやや手前、通り左手の高台に、そのハリウッドスターの生家とシャム王姿の銅像が立っています。

モンゴル人の父、ロマの母、生れはサハリンなどとその出自を煙に巻き、映画パンフにもその様に記されていて当時映画少年だった私は妙に好奇心を操られたのでした。

息子ロック・ブリンナーがルーツを探り、著書Empire & Odysseyの中で、スイス人ユリウス・ブリーネルという実業家について説き起こしていきます。1874年にウラジヴォストークで海運業に手を染め、漁業、林業、冶金へと事業を広げていき、ロシアに帰化した1890年にはサハリンから戻る途上の作家チェーホフとお茶を共にするなど町の名士でもありました。ブリヤート商人の娘ナタリア・クルクートワとの間に生まれた次男ボリスが、後の映画スターの父であるというように話は続きます。

1927年母マルーシア、姉ヴェーラと共にユル・ブリンナーは幼少期を過ごしたウラジヴォストークを去りハルビンへ亡命、さらに日中間の紛争を恐れて1933年にはパリへと渡ってデミートリエヴィチ一家の楽団に加わります。レストラン



「エルミタージュ」でギターを弾きロシアの唄を歌っていた青春時代。一家の末っ子アリョーシャとは後年「二つのギター」等のロマの唄をレコード化、現在インターネットでユル・ブリンナーのロシア語の歌声を聴くことが出来ます。

1941年渡米した時には英語もままならず、作家チェーホフの甥であるミハイル・チェーホフに演劇指導を受けたのでした。ミハイルの教え子にはイングリッド・バーグマンやグレゴリー・ペック等がいて彼らが出演したヒッチコック監督「白い恐怖」ではブルローフ博士を演じるミハイル・チェーホフを偲ぶことも出来ます。

ハリウッドデビュー後のユル・ブリンナーはアメリカ版ロシア文芸映画「カラマーゾフの兄弟」や「タラス・ブーリバ」、キエフ出身のアナトール・リトヴァク監督の「追想 (アナスタシア)」でのセルゲイ・ブーニン将校、そしてハンガリー動乱を背景とした「旅」のスーロフ少佐役ではロシア語の科白と歌を聞かせてくれます。

人の流れ、文化の動きを見るにつけ現地ガイドの話が思い出されます。「ウラジヴォストークという地名は東を領有するという意味だけではなく古代スラブ語では東と調和するという意味もあるのだ」と。(「プロコ・エアサービス」シニア・アドバイザー)



明治40年日魯漁業の前身堤商会を設立した堤清六(中央列左から2人目)平塚常次郎(前列左から3人目)らが163トンの宝寿丸でカムチャッカへ初漁と買い付けに向かった時の白黒集合写真(アムール河畔ブロング岬で撮影)を元に1949年油絵で描き起こした作品(652mm x 803mm)堤の左隣がユル・ブリンナーの父親(?-おそらく年代からすると父はまだ18歳の学生であり、祖父がカムチャッカ漁業に進出していた58歳であるため、カレンダーの説明は祖父とすべき誤記と思われる)

モスクワ「ムゼイ」巡り・その27

バーチャル版トレチャコフ美術館 (その3)
Государственная Третьяковская галерея

大矢 温

前回に続いてトレチャコフ美術館の移動展派の作品を見ていこう。

まずはヴァレンチン・セローフの「桃と少女」(1887)。モデルになっているのは、19世紀ロシアを代表する鉄道王、サーヴァ・マーモントフの娘、ヴェーラだ。マーモントフは作家のセルゲイ・アクサーコフからアブラムツェヴォの別荘を購入してそこに芸術家村を築いたことでも有名。この絵もアブラムツェヴォで描かれた。机の上の桃もマーモントフ家の果樹園でとれたものだ。

同じく移動展派のイヴァン・シーシキンの代表作「松林の朝」(1889)。ということになっているが、クマはコンスタンチン・サヴィツキーという別の画家が描いた。この絵を購入したパーヴェル・トレチャコフがサヴィツキーのサインを削り落とし、シーシキンの絵としてコレクションに加えたため、現在でも作者は「シーシキン」となっている。舞台になったのはトヴェリ州セリゲル湖に浮かぶドロドミリヤ島。

これまた移動展派のヴィクトル・ヴァスネツォフ「勇者た



ち」(1881-98)。歴史もの、民俗ものを得意としたヴァスネツォフが約20年かけて完成させた大作。古代ルーシの英雄叙事詩「フィリーナ」の主人公たちが敵を探して野原を進む様子が描かれている。中央に描かれているのが伝説の英雄イリヤ・ムロメツ。写実主義が主流を占める移動展派の中でヴァスネツォフの画風は独特の地位を占めていたが、彼は絵画だけではなく建築デザインにも才能を発揮し、おとぎ話をモチーフにした「スカースカ様式」でトレチャコフ美術館もデザインしている。

(札幌大学地域共創学群 教授)



お願い

NPO 日口交流協会では、ロシアでの日本の伝統文化などの紹介、国内でのロシア関連の学習会、ロシア人とのイベント交流など幅広い活動を続けています。これらの活動を一層推進させるために皆様からのご寄付をお願い申し上げます。一口千円からいくらかでも結構です。

振込先:郵便口座 00160-9-66486、加入者:日口交流協会
連絡先:日口交流協会事務局 E-Mail:nichiro@nichiro.org

Tel:03-5563-0626 Fax:03-5563-0752

ロシアにおけるコロナワクチンの接種状況

西山 美久

プーチン大統領は2020年8月、新型コロナウイルスの国産ワクチン「スプートニクV」を世界に先駆けて承認したと発表した。同年10月には2番目となる国産ワクチンが承認されたことも明かした。そして12月にはワクチンの大規模接種がロシア国内で始まり、特に感染リスクが高い医療従事者や教師らを対象にして優先的にワクチン接種がなされることになった。現在では一般市民も接種可能となっている。



ン接種を促すつもりなのか、無料のアイスクリームも配られているという。また、モスクワ市南部のショッピングモールにある接種会場（写真参照。筆者撮影）では、グム百貨店とは異なり行列は出来ていないものの、係員の話に耳を傾けると待ち時間は40分ほどであり、ワクチン接種を望む人が多数訪れているのだろう。

モスクワ市では、ピーク時に比べ新規感染者数が大幅に減ったとはいえ、日本に比べるとその数は未だに多い。2021年4月中旬ごろから新規感染者が増加傾向にあり、2500名前後が毎日確認されている。ソビヤーニン・モスクワ市長は経済への影響を考慮してか、飲食店等に対する営業時間短縮は検討していないと語っている。プーチン大統領は2021年4月の年次教書演説で「新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐ唯一の手段はワクチン接種だ」と述べて、国民に接種を求めた。

各種報道によると、モスクワ市内のショッピングモールや文化施設などでは特設会場が設けられており、ワクチンを接種できる。例えば、観光地として有名な赤の広場に隣接するグム百貨店の3階にも会場が設けられており、市民にワクチ

「スプートニクV」承認後に政府系調査機関「全ロシア世論調査センター」が実施した調査によると、国産ワクチンを接種すると答えたのは42%であったのに対し、接種を希望しないのは52%であった。他方、同センターが2021年4月に発表したデータによると、46%がワクチンを接種する用意があると答え、接種しないのは39%であった。現地報道によると、ロシアでは630万人（全人口の4.3%）がワクチンを既に接種している。

さて、最近では公共交通機関やショッピングモールでマスクを着用しない人が目立ってきた。春の解放感やコロナ疲れがあるのかもしれない。いずれにせよ、今後感染者が増加しないか気になるところである。

(北海道大学)

明治初期の北海道における露国式丸太式小屋とペチカ

倉田 有佳

数年前にならうか、日本軍の北樺太撤兵前後（1924年秋～1925年5月）に日本へ避難してきたロシア人のことを調べていると、次のような内容の新聞記事が目にとまった。「夫恋しさに住み馴れた亜港（現アレクサンドロフスク）を見捨てて小樽港に到着したマルファ婆さん。出迎えた夫は、道庁や札幌病院のペチカの設置のために来道していたウルワンツィフ爺さん（1924年9月19日付『小樽新聞』）。」

北海道庁は、1909年に火災で庁舎が失われた後、独立した「汽缶室」を新築。市立札幌病院は、1923年に「木骨外壁コンクリート洗出し三階建洋風」の本館竣工後、煉瓦造の「蒸気暖房給水装置」を設置。ウルワンツィフ（Урванцев か？）爺さんは、煉瓦を巧みに扱うペチカ職人の腕前を發揮したに違いない。

ところで、北海道ではペチカが積極的に築造された時期があった。「露国式丸太小屋」の防寒性と「ペチカ」を高く評価したのは黒田清隆で、当時は北海道の開拓を任務とする開拓使の長官を務めていた。榎本武揚の助言を受けた黒田は、明治

11/1878年8月にウラジオストクを訪れ、さらに同年11月、敢えて厳寒期を選び樺太の大泊（現コルサコフ）を視察した。黒田は、樺太からロシア人大工3名を連れて帰り、彼らと日本人の伝習生が、露国式（風）丸太組の官舎や学校等【写真】、篠津（現江別市）に入植する屯田兵のた



明治13年竣工直後の小学校（札幌の藻岩学校。現南3条西7丁目）（北海道大学附属図書館所蔵）

めの兵屋を建てた。

続いて、ウラジオストクからステパン・ムールジンが「煉瓦師」として招へいされ、開拓使は、明治13/1880年12月28日から翌年11月18日までの1年間、月給銀貨80円で雇用契約した。「お雇い外国人」ムールジンは、上記「露国式丸太小屋」に、「露国型仕様」の「学校暖炉」、「両口暖炉」、「暖炉竈（かまど）」を設置した。明治天皇の宿泊所となる「豊平（ほうへい）館」（アメリカ様式の建物）の「料理竈」も手掛けた。「暖炉竈」は、暖房器具とオーブンを兼ね備えた、ロシアのペチカと同じである。開拓使が、煉瓦で築造するペチカ、料理竈を「無比ノ良法」と考え、アメリカ風のストーブよりも高く評価したのは、用いる薪の量が少なく、長い時間火気を保てる点にあった。

他方で、普及を阻む難点が多々あった。まず、ペチカと不可分の「露国式丸太小屋」は、まっすぐな丸太の確保が難しく、角を削って加工した。建築費は琴似式兵屋（日本風家屋）の約四倍と高く、また構造が難しかったため量産できなかった。丸太の隙間に詰めた苔がうまく固まらず、乾いてボロボロと落ちて隙間ができてしまい、効率よい暖房の効果は見られなかった。

黒田開拓使長官が相当入れ込んだ露国式丸太小屋とペチカは、気候や植生の違いだけでなく、開拓使の廃止（明治15/1882年）、札幌の市街地化等、北海道が新時代を迎える中で廃れていった。現存する建物はない。

(ロシア極東連邦総合大学函館校教授)